

天皇の崩りましし後の時に、倭大后の作

らす歌一首

一四九番

人はよし 思ひやむとも 玉かづら 影に見えつ
つ 忘れえぬかも

天皇の崩りましし時に、婦人の作る歌

一首

一五〇番

うつせみし 神に堪へねば 離れ居て 朝嘆く君
離り居て 我が恋ふる君 玉ならば 手に巻き持
ちて 衣ならば 脱く時もなく 我が恋ふる 君
そ昨夜 夢に見えつる